

平成 22 年度熊本大学総合技術研究会への取組みと組織の活性化について

熊本大学 上村実也（実行委員会事務局長）

1 はじめに

平成 23 年 3 月に平成 22 年度熊本大学総合技術研究会を開催させていただきました。

未曾有の甚大な震災発生直後の開催となり、各方面から中止の進言など慎重な対応を求めのご意見も戴きました。被災地域の方々をはじめ、多くの皆様にご心配とご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

参加者数は、研究所：70 名、大学：601 名、高専：91 名、企業・自治体：8 名の 770 名に加えて、特別講演（一般公開）への一般参加 50 名及び口頭発表、ポスター発表への本学教職員・学生の聴講参加 50 名を合わせて総勢 870 名となりました。災害の中に参加いただいた方々や励ましをいただいた方々に対して厚くお礼申し上げます。

なお、研究会の開催期間中に義援金を募ったところ多くの皆様にご協力いただき、449,322 円をお渡しすることができました。

2 開催の経緯

1976 年 2 月、分子科学研究所において全国の初の技術研究会が開催された。

核融合研究所の小平純一氏による討論資料(1993/10/12)において技術研究会の経緯と意義について次のように紹介されている。

分子科学研究所、高エネルギー物理学研究所、核融合科学研究所が毎年持ち回りで開催している技術研究会は歴史を重ね、全国の大学及び研究機関の技術職員に定着し、また技術職員を抱える機関の研究者並びに事務の方々にも認識をしていただくに至っている。近年各大学でも技術部の組織化が進み技術職員の質的な変化が生まれようとしている段階で、技術研究会の歴史を振り返っておく意義があると思う。第 1 回分子研技術研究会で井口洋夫教授は研究会報告によせての一文にその趣旨を次のように述べている。「はじめて技術課が発足でき、新しい意欲に燃えて、一步一步基礎研究所における”技術”グループの基盤を作りつつある。勿論、研究所が生まれてまだ 1 年にも足らずすべてこれからである。研究所としては広く知識を求め、交流し、とかく狭くなり勝ちな技術者同志の協力に資すると共に自分たち自身の発展への刺激のために技術研究会を持つことにしている。この研究会の息の長い継続と発展のために、何卒きびしい批判と暖かい援助をお願いする次第である。」第 2 回分子研技術研究会では報告集の巻頭言で高橋重敏課長は「技術研究会の役割について」の中で「特に我が国における研究支援技術の現状は、諸外国に比べて著しく劣悪だと言われている。この事態を改善するためには、下記二つの面での努力が必須のことであると私は考えている。(1) 優れた技術者をしかるべく処遇できる行政上の方策を講ずること。(2) 技術者が自ら新しい技術を修得向上する機会があること。当研究所の新設にあたって、文部省所轄研究機関としては始めて技術課が設置されたのは、上記(1)の具体的政策の一つであるといつてよい。私が以下に述べたいのは、上記の(2)についてである。技術者は普通閉鎖的な職場にあり、他の技術者との交流が少ないため独善に陥り、新しい技術や批判を受け入れにくく、単なる『余人を持ってかえ難き名人』に留まる場合が多い。こういう場合、科学と技術の発展変貌に応じて、常に研究の遂行に資するという事は困難である。一

方大学で専門的教育を受けた若い技術者が、希望と意欲にもえて就職しても、理論に裏付けられた体系的技術指導を受ける機会に欠ける現状では、正しく評価され、かつ研究を支えることに誇りをもつ有能な技術者に育つことは少なく、各人が自分の持つ技術や技能を公開して他に伝え、技術に関する相互批判や討論を行って独善を排すると共に、新しい技術を学習、修得して各人の技術向上を図ろうとする研究会は、われわれ技術者が保有する技術の質と量の拡大に大変役立つだけでなく、特に若い技術者の研修の場として有効であり当研究所でも上記趣旨の研究会を正式の『技術研究会』として発足することになった。」第6回分子研技術研究会の巻頭言で分子研の管理局長の松澤美作氏は「当初の考え方は対象として、所内と名古屋大学の理工系の技術者に絞り、相互の技術交流を図ることを企画したものであった。しかし回を追うに従い、この会の存在を伝え聞いて、参加を希望する方々が地域的にも、また人数もふえ、主催者が嬉しい悲鳴を上げる傾向が年々顕著になった。第6回の場合も、会の適正規模等からご希望に添えない方々もあって申し訳なく思っているが、北は北大から南は都城高専まで、44名の方々が参加され質量ともに充実した研究会となったことは喜びに堪えない。幸い筑波の文部省高エネルギー物理学研究所当局のご好意で、同研究所主催の技術研究会が今秋から開催されることになったことは、わが国の国立大学に職を奉ずる技術者の技術研究交流の将来のために画期的なことであると欣快にたえない。願わくばこれらの企てがさらに全国の各地でもたれ、ブロック毎にこれらの技術交流の研究会が催されることを期待する気持ちが切である。」

----- (途中省略) -----

最近の開催では高エネルギー物理学研究所が1992年に開催した研究会について次のように世話人は述べている。「本研究会は、近年の科学技術の急速かつ多様な発展の下で大学および研究所における技術者の果たす役割が重視されつつある情勢を踏まえ、これら技術者に向上心の促進とより高度で実践的な経験に接する機会を与え、総じて技術の向上を図ることを目的にして開催された。我々は、こうして育ちつつあるこの研究会が、全国の大学、研究所で活躍中の技術者の日頃の技術活動を励ます力になるようにしていきたい。大学および研究所の教育と研究の発展にとって、技術者の地位と処遇を改善することが不可欠であることが叫ばれている現在、我々技術者が社会的要請に十分にこたえて行くためにも本研究会を更に充実していく必要がある。」

この意義を継承・発展させるべく、平成8年度(1997年2月)に名古屋大学(2分科会)及び北海道大学(低温技術分野)で研究会を開催、平成12年度(2001年3月)の東北大学での開催から研究所と大学が隔年で開催することになり、平成15年3月KEK技術研究会の情報交換会で当時の本学工学部副技術部長から、平成22年度は熊本大学で開催したいとの提案を行い、翌年、平成16年度(2005年3月)の大阪大学での技術研究会運営協議会において承認され、今回の開催に至ったものである。今後は、平成23年度：分子研、平成24年度：愛媛大学、平成25年度：核融合研、平成26年度：北海道大学で開催される予定である。

3 熊本大学総合技術研究会のトピックス

(1) 集中技術交流セッション

今回は、従来 of 成果発表に加えて、専門技術横断的な活動報告を募集し、多角的なディスカッションによる各種専門技術の融合と技術の深化を目的として「集中技術交流セッション」を企画した。

結果は、口頭発表件数の関係で、「集中技術交流セッション」を単独の時間帯で実施することができなかつたため参加が厳しい状況であったが、参加者からは、技術習得に有意義だったとの声が多く

寄せられた。

(2) エクスカーション

おそらく技術研究会初の試みとして、研究会最終日にエクスカーションを開催した。35名の方々に参加いただき、阿蘇ジオパークの自然に触れ、阿蘇火山博物館及び阿蘇山火口において研修するとともに、温泉を満喫しながら情報交換が活発に行われた。

(3) 特別講演（一般公開）

自然エネルギーの利用に関する動向について理解を深めるとともに、一般の方々に対する科学啓発、本学教職員及び学生に対する技術系職員の業務内容や研究成果についてアピールすることを目的として、企業の研究者を講師として特別講演を開催した。開会式に続いての開演であったこともあり、一般参加者の入場に少し時間を要したが混乱は少なく、「太陽光エネルギーシステムの現状と未来」をテーマとした講演を聴講した。今回は内容についての関心度も高く、参加者から資料の提供ができなかったことに対して不満が寄せられた。

(4) 基調講演

文部科学省高等教育局に技術系職員の現況について把握いただくとともに、参加者に対して今後の科学技術基本計画における技術支援体制についての説明を聴くことで、技術系職員の業務・組織の活性化に繋げることを計画していたが、震災対応のためキャンセルとなった。

(5) 技術職員シンポジウム in 熊本大学

技術職員シンポジウムは、従来から高エネルギー加速器研究機構において毎年開催されているところであるが、総合技術研究会には多数の大学や高専からの参加が見込まれるため、この機会に技術系職員の業務の活性化等に関する意見交換会の開催要望が寄せられ、他機関の協力を得て実施した。予想を遙かに超える約600名の参加となり、会場を急遽変更する事態となってしまった。今回のシンポジウムのパネリストには大学・高専からの参加が多いため、山形大学、電気通信大学、三重大学、広島大学、名古屋工業大学、熊本大学にお願いした。研究所関係者から、パネラーが大学に偏っているとの意見が寄せられたが、討論の中でのアイデアやご意見をお願いした。

この結果、各大学の取り組みに関する報告に関心が集まり、参加者からは、今後の総合技術研究会において継続開催の要望が寄せられた。

4 事前準備

平成22年度開催に向けて、研究会の円滑な運営を目的として平成21年度にpre大会として九州地区総合技術研究会 in 熊本大学を開催した。

これにより、運営体制、会場レイアウト、受付方法等のマニュアルを作成することができ、今回の研究会の基礎を築いた。また、平成20年度京都大学総合技術研究会に、実行委員会スタッフとしてお願いする人材を派遣し、その運営の状況や各種案内板の内容・位置等の視察を行った。

これらの活動によって、各人の今回の研究会に取組む方向性を一致させると共に、やる気を高めることに繋がったと考える。また、九州地区総合技術研究会が九州地区の大学・高専の協力によって継続開催されることになり、平成23年度は、平成24年3月に鹿児島大学で開催されることになった。

5 実行委員会

実行委員会は、実行委員長、事務局長、幹事、委員及び相談役で構成した。各役員の業務内容は表1のとおり。

実行委員の人員は、研究会（自然科学系、生命科学系、人文社会系、その他を含めた 11 分野）を円滑に進行するために、延べ 130 名程度のスタッフを配置する必要があった。このため、工学部技術部 43 名の他、教育学部、理学部、発生医学研究所、総合情報基盤センター、eラーニング推進機構、衝撃・極限環境研究センター、大学院生命科学研究部からの応援と自然科学系事務部並びに学生アルバイトの協力を得て、一部の業務については、一人二役体制もお願いして必要人員を確保した。

この結果、他部局の技術系職員及び事務系職員との共同作業によって、円滑な運営とお互いを知る機会となり、日常業務の円滑な推進にも繋げることができた。

6 諸作業の工程

平成 22 年度総合技術研究会のスタッフについて工学部副技術部長を議長とする工学部技術部系総括会議において鋭意検討を進めて 2010 年 2 月に前述の実行委員会を編成することを決定し、2010 年 3 月には琉球大学で開催された実験・実習技術研究会および機器分析技術研究会に手作りの PR ビデオを持ち込んで参加を呼びかけた。また、実行委員一人一人が研究会の全体像を把握し意識の統一を図るために、実行委員会設立会&説明会を開催して表 3 に示す諸作業の工程等について説明した。

7 参加登録、発表概要および報告集原稿の受付方法

参加登録は web により行うこととして、当初の予定より遅れて 2010 年 10 月から受付を開始し、各受付の期限を表 4 のとおり設定した。

締め切り期限は、報告集の印刷に要する期間から 1 週間程度の余裕をみて設定したが、申込や報告集原稿提出の遅延や差し替えの要望もあった。要望には可能な限り対応することを基本として、受付期限を 1 週間延長した。それでも遅延等があつて、タイムテーブル、報告（概要）集および CD の編集に追われることになった（印刷業者への引き渡し後の差し替え要望があつたものは残念ながら受理できなかった。）。今後の研究会をスムーズに運営するためには、全国の技術系職員が期限を厳守することを徹底する必要性を強く感じた。

8 広報

ホームページにて、主催者代表（学長）挨拶をはじめ、開催要項や受付手順並びにプログラム等を掲載した。また、(社) 国立大学協会ホームページへの掲載をお願いすることで大学等の関係者に対して研究会の開催を広く PR した。さらに、本学事務部を経由して報道機関に告知したことで、特に特別講演への一般からの参加が得られて社会貢献の一つの行事としても受け入れられた。受付開始日から研究会前日まで、開催の案内メール中に熊本のみどころについて随時紹介することで熊本の魅力を紹介した。

研究会開催日 1 週間前からは、本学キャンパスの道路に面した石垣の上に、本研究会開催を告知する看板を掲示し、市民への広報と、当日の参加者の誘導に活用した。

研究会前日及び当日には、全ての会場および通路に参加者を誘導する掲示板を設置した。掲示板は、経費節減のため道路石垣の看板を除いて全て実行委員が作成・設置した。

9 情報交換会

準備段階では、本学学生会の熊大フィルによる演奏で出迎え、郷土芸能として山鹿灯籠踊りを同保存会の踊り手とお囃子で披露する計画であったが、震災のため、食事と飲み物のみを提供して情報交

換会を開催した。想定していた人数を大幅に超え 500 名程度の参加となって、会場はかなり混雑し、料理もすぐに足らなくなる始末ではあったが、あちらこちらで真の情報交換が繰り広げられていた。

10 予算

研究会を開催するにあたって、平成 21 年度の技術研究会運営協議会において、地方大学にあっては大学経費からの予算化が厳しい状況にあるため参加費の改定について提案した。協議の結果、研究会は、主催機関が開催するものなので参加費の額を含めて、全て当該機関において決定・実施できることを確認した。

予算の縮減策として、報告集の CD 化を行うことで印刷費を低く抑え、名札等の消耗品についてもなるべく廉価な商品を購入、ほとんどの掲示物は大学所有の大型プリンタを借用して手作りで作製、大会バッグはコンベンション協会から 1 部 50 円で購入した。

予算は、参加費 1 人 2 千円、コンベンション協会から 30 万円、また、学長裁量経費から 46 万円を助成いただき、総額およそ 300 万円（情報交換会費は除く。）の予算で運営した。収支決算は、表 5 のとおり。

11 震災の中での開催

2011 年 3 月 11 日（金）午後、東北関東大地震（M9.0）が発生した。これに伴って大津波も発生し未曾有の甚大な災害が起こった。

発生直後はこの甚大さがわからず、被害の状況が少しずつ判明して行く中で 3 月 14 日（月）朝一番に主催者代表の学長と開催するか否かについて協議した。学長からは、被害の状況並びに各種学会や催事が次々に中止になっている事が紹介され、続いて、研究会の準備は実行委員により着実に完了していること、および参加（事前登録者数 900 名、キャンセル見込み 300 名、参加見込み 600 名）について報告した。協議の結果、被災された方々や参加者に十分に配慮することを念頭にして研究会を開催することが決定した。

これを受けて、事前登録者 900 名に対して研究会開催についてメールでお知らせした後、実行委員に開催決定の経緯と開催にあたっての一致協力をお願いした（表 6）。

12 研究会の開催と組織の活性化

今回、この研究会を開催できたことで、技術系職員同士の絆がより強固なものになったと考える。

研究会のような皆の力を合わせてやり遂げる活動を行うことで、お互いを知り、気持ちをより深く理解することができるようになってきたと思われる。特に、本学にあっては、工学部技術部以外の学部の場合、ほとんど顔を合わすことがないと聞いていた。今回の研究会を共同で運営したことによって、当該学部内外に知り合いができ、業務上も良き相談相手となってより円滑に業務が進展するものと考えられる。

また、実行委員会の幹事は、担当する事項の掌握、作業方法の決定、作業の分担等のリーダー的資質が要求される。技術系職員の組織化を行う際にも、このリーダーのマネジメント能力が業務の適正化や効率化を左右することになるが、研究会を運営することもマネジメント訓練の一つになったものと思われる。

本学工学部技術部では、第二期中期目標・計画において、「高度な専門技術の融合と人材育成を通して教育・研究の向上に寄与できる技術者集団を目指す。」を目標に置いて、学部における教育事業

をはじめ、大学院教育・研究や受託試験並びに共同研究等のニーズに各種専門技術で応えるために、専門技術別にチームを区分し、従来の学科の枠に関係なく当該教育研究に必要とされる専門技術チームにより高度な技術を効果的に提供できる仕掛けを検討し、最近、その試行を開始したところである。

今後は、全学の技術系職員の組織化についても視野に入れながら、研究会を運営した仲間として本学における技術系職員の業務・組織のあり方について検討を進めていく計画である。

表1 実行委員会の構成

役 職	業 務 内 容
実行委員長	研究会運営の統括 学長、部局長、他機関関係者との連絡調整
事務局長	運営に関する全ての事項の掌理 実行委員長、各幹事との連絡調整 コンベンション協会、大学事務部との連絡調整 広報（国立大学等協議会、メール配信）
幹事	担当業務の統括 担当者、事務局長との連絡調整
委員	担当業務の実施
相談役	運営に関するアドバイス 他機関との連絡調整

表2 実行委員の人員

担 当	内 容	人員（担当の重複を含む。）
参加登録	参加登録システム構築・運用 報告集 CD の編集	5名
広報	ホームページの作成 報告（概要）集の編集 記録写真撮影・保存 各種案内用掲示物の作成	6名
講演会場（14会場）	会場・器材の準備 タイムキーパー、照明の担当	52名
ポスター会場（1会場）	会場・器材の準備 ポスター掲示・撤去の案内	4名
情報交換会	会場、料理、進行 （郷土芸能は震災のため中止）	3名
受付 （総合案内・クロークを含む）	名札の作成 受付・クロークの担当	9名
交通整理	臨時バスの手配 キャンパス内交通整理の担当	8名
エクスカージョン	旅行業者との協議 人員確認・案内	3名
出納	校費、参加費の管理 決算書の作成	3名
分科会（11分科会）	タイムスケジュールの調整 予稿原稿の収集と内容確認	22名

表3 諸作業の工程

平成22年度熊本大学総合技術研究会作業工程

	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実行委員会メンバー決定			○										
実行委員会口座開設	I		○										
生協宿泊・ツアー運用依頼	H		○										
開催内容決定			○										
後援依頼			○										
開催通知（第1回目・メール）			○										
ホームページ更新	AB		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
懇親会会場申込み	E		○										○
山鹿灯籠踊申込み	E		○										○
公開特別講演依頼			○										○
来賓出席依頼					○								○
ポスター印刷	B			○	●								
企業広告・機器展示等協力依頼					○								
受付システム運用	A				○	○	○	○	○	○	○	○	
開催通知（第2回目・文書・メール）					○								
発表原稿提出依頼										○	●		
プログラム決定										○			
座長依頼・決定										○			
プログラム集印刷	A										○		●
開催通知（第3回目・メール）											○		
聴講参加登録締切												●	
参加費等振込締切												●	
参加者名簿作成	A					○	○	○	○	○	○	○	○
名札作成	F											○	○
コンベンション協会申請											●		
大会横断幕作成（県道側）	B										○	○	○
会場内外掲示物印刷	B											○	○
会場内機器・物品準備	CD											○	○
受付用物品準備	F											○	○
臨時バス手配	G										○	○	○
オプションツアー参加確認・調整	H				○	○	○	○	○	○	○	○	○
会場設営・運用・撤収・清掃													●
コンベンション協会報告													●
大会実施報告													●
実行委員会幹事会			○		○			○		○	○	○	○
実行委員会全体会			○							○			○

表 4 受付の期限

項 目	期 限
発表参加申込期限	2010年12月17日
報告集原稿提出期限	2011年1月14日
聴講参加申込期限	2011年2月10日
参加費振込み期限	2011年2月17日

表 5 収支決算

【収入の部】

項 目	予算 (千円)	備 考
参加登録料	1,806	@¥2,000 × 903名
エクスカーション参加料	350	@¥10,000 × 35名
工学部技術部	172	
大学補助金	460	
コンベンション開催助成金	300	
合計	3,088	

【支出の部】

項 目	予算 (千円)	備 考
報告集印刷費(CD 込み)	950	1000部
エクスカーション (阿蘇市)	427	
案内掲示板・制作委託費	148	2枚
名札、消耗品	1,197	
大会バッグ	50	1000部
通信費	116	
謝金、旅費	200	
合計	3,088	

表 6 実行委員へのお願い

実行委員会 各位

熊本大学総合技術研究会の成功に向けて

平成23年3月15日

実行委員会事務局長 上村実也

まずは、今回の被災された方々にお見舞い申し上げるとともに、多数の犠牲になられた方々のご冥福をお祈りします。

6年前の運営協議会において平成22年度の開催校を熊本大学で開催することが決定され、これ以降、他の研究会への職員の派遣を皮切りに、2年前の京都大学には十数名を送り込み、その運営方法を学んできました。さらに、昨年は、Pre 総合技術研究会と位置づけて九州地区総合技術研究会を開催することで、運営マニュアルを構築し今回の研究会の基礎を作りました。

そして、昨年3月から実行委員会を立ち上げて、琉球大学においてPR事業を展開、4月から業務の傍らホームページの構築や登録システムの開発を開始し、9月にホームページ公開、10月から参加登録の受付が開始できました。

参加者からの報告集原稿の提出の遅延が多く発生したため、報告集のとりまとめに苦労したのを鮮明に記憶しています。

その後、実行委員が着々と準備を進める中において、いよいよ目の前に開催日が迫った11日、「ひどいことがおきた」との第一報が入り、事態が明らかになって行くたびに、「決行」と「中止」の文字が常に頭をよぎりました。

14日、決断の時がやってきました。

私たちは、これまで実行委員会が苦労して準備してきた成果を熊大で発表できる機会を与えたい、被災地における事態の推移から自粛も考えたが、自粛して中止することで何がプラスになるだろうかと思うとき、今、大切なのは自粛でなく、日本に明るい希望と力を与えることだと確信し「決行したい」という気持ちでいっぱいでした。

早朝に学長に面談を申し込み、忙しい中に時間を作ってもらうことができた。学長とこれまでの準備状況、参加予定見込み、各学会の中止、県内外イベントの中止等の状況等を踏まえた検討を行った結果、被災した地域からの参加者への配慮を念頭におくことを条件として「決行」することが決定した。

この決定を受けて、全国の参加者に対して「決行」の通知を行ったところ、「開催してもらえてよかった」、「参加したかったが参加できなくて残念です。成功を祈ります」等々の連絡が届いた。さらに、災害地では、各機関の施設・設備のダメージ、心のダメージ、通信状況が悪い中にあるのに関わらず電話、フリーメール等々を使って、キャンセルせざるを得ない事、また、これまでの準備に対する感謝する等々について連絡いただいております。

この現状から、今回の実行委員会は、これまでに誰も経験のない研究会の運営を任されたことになります。

「日本に明るい希望と力を与よう」をスローガンとして、これから長期に及ぶ復興の力となり得るように、実行委員一人ひとりが持つ素晴らしい能力と技術を結集して、この研究会の成功に向けて一緒に頑張っていたただくよう節をお願いします。

(参考) 実行委員会最終打合せ資料

平成22年度熊本大学総合技術研究会業務の概略

I 受付

担当 ; ○山本、松本、谷口、平田、吉村、後藤、居村、倉田、学生アルバイト6名、事務部6名

- 1 受付時間 (17日) 9:00~17:00
(18日) 8:30~16:00

- 2 受付方法

場所 : 2号館1F

分類 : 当日受付、座長受付、五十音受付(あ行、か行、さ行、た行、な行&は行、ま行以降)

手順: ① 初めて会場に入る際に、各受付場所にて名簿の確認を行い、名札と報告集を配布する。
参加費の未振込者(座長を除く)は、「当日受付」へ案内し、会費を徴収後、名札を配布し、所属・氏名を記載してもらう。(参加登録済みの方の名札については、所属、氏名が印刷されたものを配付します。)

② 会場担当から座長の参加状況を尋ねられた場合は、座長受付担当者が回答する。

③ 報道機関による取材の申込があった場合は、受付会場に備付の携帯電話から実行委員長(不在の場合、事務局長)へ連絡する。

- 3 総合案内

場所 : 2号館1F

設置 : クローク入り口に近い位置に設置する。

配置 : 総合案内は受付担当の1名~2名を配置する。

内容 : ① 施設公開

受付(衝撃・極限環境研究センター: 定員20名/回)

各回15分前まで受け付け、田中氏へ連絡する。

(17日) 15時、16時

(18日) 11時、14時

② バス時刻(熊大前、交通センター-空港の時刻表を置いておく。)

③ 観光(いくつかのパンフレットを置いておく。)

④ 会場(会場配置図を置いておく。)

⑤ 無線LAN利用受付(LANトラブルには谷口氏が対応)

⑥ 総合技術研究会並びに実験・実習技術研究会のアンケート回収

⑦ その他、参加者からの質問等に可能な限り対応する。

- 4 研究会等開催のPR用ボード

受付会場に、各研究会等の開催PR用のボードを設置し、掲示してもらう。

- 5 クローク

場所 : 214教室

方法 : 参加者の自己責任において、荷物を置いてもらう(荷札等は発行しない。)。貴重品は置かないよう注意書きを掲示する。総合案内の担当者は、適宜、関係者以外が入らないよう目配りする。

II 開会式

担当：神澤、会場担当

場所：G会場（223 教室）＋A V 配信 6 教室

準備：横断幕、垂れ幕、来賓席、一般参加者席（15 席）、A V 配信

内容：参加者の誘導

司会：上村

III 特別講演（一般公開）

担当：会場担当

場所：G会場（223 教室）＋A V 配信 6 教室

準備：垂れ幕、来賓席、一般参加者席（15 席）、A V 配信、ビデオカメラ

内容：参加者の誘導、プロジェクタ、スクリーン、マイク（司会、演者、質問者）、調光

司会・講師紹介：神澤

IV 基調講演

担当：会場担当

場所：G会場（223 教室）＋A V 配信 6 教室＋ビデオカメラ

準備：垂れ幕、来賓席、A V 配信

内容：参加者の誘導、プロジェクタ、スクリーン、マイク（司会、演者、質問者）、調光

司会・講師紹介：神澤

V 口頭発表会場

担当：○山室、清水、白川、泉水、宮崎、甲斐、有吉、中村、百田、高椋、清水（教）、辻（情基）、島本（情基）、木田（情基）、山本、小畠、山口、大村、青木、寺村、大嶋、上田、佐藤、仲間宮部、須恵、島本(極限セ)、中川（医）、中村（医）、友田、戸田、津志田、田中、井上（教）川原（医）、外村、西本（教）、磯部、白石（医）、大津（医）、松田、坂本、学生アルバイト 10 名（役割分担及び担当時間については会場担当幹事から指示。）

1 配置

1 会場につき、タイムキーパー&座長・発表者の確認役、調光&マイク渡し役の 2 名並びに座長&プレゼンファイル受付役（フロア共通）の 1 名を配置する。

2 準備

- ① 座長席に、「座長マニュアル」（会場担当で準備）、当該セッションの「発表リスト（発表順、発表者氏名（カナ付）、所属）」（分科会担当で準備）を置く。
- ② セッション名、発表時間、予鈴等を掲示する（会場担当）。
- ③ プロジェクタ、マイク、照明の動作を確認する（会場担当）。

3 内容

- ① 座長の受付を行う（各セッション開始 10 分前まで）。受付会場の「座長受付」は、最初の来学した際の 1 回のみでの受付を行う場所であり、担当するセッションの会場にスタンバイできているかについては確認できない。そこで、担当するセッションの開始時刻 10 分前には、担当セッションの会場入口近くの「会場受付」にてスタンバイできていることを確認させてもらい

ます

- ② 「会場受付」にて発表者の PC 持参状況および PC を持参していない発表者のプレゼンファイルの登録を行う（発表 20 分前まで）
- ③ タイムキーパーは、前のセッションの終了後に発表者の PC の接続及びプレゼンファイルを発表用 PC にコピーする。
- ④ タイムキーパーは、セッション開始 5 分前になったら座長を座長席に、発表者を発表者席に案内する。
- ⑤ タイムキーパーは、座長へ、座長マニュアルによるアナウンス～発表をお願いする。
- ⑥ 「会場受付」では、学生又は教職員が聴講する場合には、所属・氏名・学年等を記入してもらい入場させる。

報告集が必要と申し出があったときは、「当日受付」にて登録するようお願いする。

4 試写室

場所：214 教室

方法：会場担当から 1 名が担当し、教室備え付けのプロジェクタに接続して動作確認に立ち会う。

VI ポスター発表

担当：○矢北、稲尾、学生アルバイト 2 名

1 配置 ポスター担当作成レイアウトのとおり。

コンセント等の設置、資料台の必要な場所への設置

2 設営 16 日の午後（雨天の場合は、15 日にボードを運搬）

3 内容

- ① 発表者からの掲示の位置等の問い合わせに対応し、発表責任時間について周知する。
- ② 18 日の 15 時に撤収するので、それまでに各自で撤去するようお願いする。
- ③ 残ったもの及び捨てて帰る人の分は、ダンボールに入れてもらい古紙倉庫に保管する。
- ④ 学生又は教職員が聴講する場合には、所属・氏名・学年等を記入してもらい入場させる。
報告集が必要と申し出があったときは、「当日受付」にて登録するようお願いする。

VII 談話・機器展示・物産コーナー

担当：受付担当

1 会場 工学部百周年記念館

2 内容 機器展示 11 ブース及び飲食物販売、お土産販売並びに九州電力提供 E V 車の展示並びに 談話コーナーにお茶とお菓子を無料で提供する。

3 担当 受付担当において 17 日正午～18 日 15 時まで 1～2 名で適宜お願いします。

- ① お茶、お菓子、ゴミ袋の購入
- ② 展示企業等への配置場所の連絡・調整（上村）
- ③ お茶、お菓子の補充とゴミの処理
- ④ 工学部百周年記念館内の照明、温調

VIII 施設公開

担当：機器製作技術系、田中、各公開施設関係者

- 1 五高記念館（国指定重要文化財）
開館時間：10時～16時（昼休みも見学できます。）
見学申込：不要
- 2 工学部研究資料館（国指定重要文化財、機械遺産）
開館時間：（3月17日）14時～17時
（3月18日）10時～15時（昼休みも見学できます。）
見学申込：不要
- 3 衝撃・極限環境研究センター 総合案内で受け付けて田中氏が誘導する。
開館時間：（3月17日）15時、16時の2回
（3月18日）11時、14時の2回
見学申込：要（総合案内にて各回15分前まで受け付け）
定員：各回20名
- 4 ものクリ工房
開館時間：10時～17時（昼休みも見学できます。）
見学申込：不要

IX 情報交換会

担当：○松本、宮部、居村（道案内：会場担当）、受付担当

- 1 会場 メルパルク熊本 3階
- 2 郷土芸能披露 山鹿灯籠踊り
- 3 担当
 - ① 受付担当による名札の確認、来賓への名札の配付
 - ② 会場並びに出演団体との連絡・調整、進行の指示、参加者への気配り
情報交換会会場では、実行委員の皆さんも「おもてなしの心」で対応願います。
 - ③ 白川公園バス停及び熊本大学からの道案内（会場案内図を全員に配布します。会場担当から人を配置します。）

X 交通整理

担当：○岩田、吉岡、志村（eラ）、学生アルバイト2名、警備員1名（17日16:30～17:30）、
バス会社2名

- 1 準備 案内用掲示板の設置並びに駐車スペースをコーン・縄張り等で確保する。
- 2 内容
 - ① 自家用車、バス、タクシーの入構、出構の際に誘導（タクシーの入構車数を制限）する。
 - ② タクシーに待機場所を指示する。
 - ③ バスに待機場所を指示する。
 - ④ 参加者の問合せに応じる。
 - ⑤ その他、構内の安全を確保する。

X I エクスカーション

担当：倉田

1 準備 生協との行程、部屋割り、火口での解説、昼食会場に関する連絡・調整

2 内容

- ① 18日のバス移動の際に、エクスカーションの行程及び阿蘇ジオパーク並びに宿泊場所の楽しみ方について説明する。
- ② 19日の見学の際に、火山博物館入館料、白川水源入園料を支払い、各見学場所で誘導及び人員確認を行う。
- ③ 見学終了後の降車場所（空港、駅、その他）を聞いて、その場所に着いたら知らせる。

会期中の会議等

A 技術職員の今後を考えるシンポジウム

担当：神澤＋会場担当

場所：N会場（共用棟黒髪 1_1F 講義室）

日時：17日 9：30～10：50

準備：会場備付以外にプロジェクタ1台、スクリーン1台、ビデオカメラ1台

パネル討論用に机を配置（パネラー7名、司会1名）

参加人数：80名（事前申込者）

B 九州地区総合技術研究会設立懇談会

担当：神澤＋会場担当

場所：工研2Fセミナー室

日時：17日 15：30～16：30

準備：机を会議用に配置

参加人数：30名

C 技術研究会運営協議会

担当：神澤

場所：工研2Fセミナー室

日時：18日 10：30～11：30

参加人数：50名

D 実験・実習技術研究会連絡協議会

担当：神澤・西本

場所：工研2Fセミナー室

日時：18日 12：20～13：00

準備：弁当・お茶の注文（担当：西本）

参加人数：30名

緊急連絡先 携帯：実行委員長

事務局長